

1. 養殖施設の適正配置の指導・育苗期のノリ芽健全度調査の実施・生育状況の情報提供、既存の気象海況・生産状況のデータベース化、養殖管理情報の提供等の技術指導

養殖施設の適正配置の指導・育苗期のノリ芽健全度調査の実施・生育状況の情報提供を実施しています。

本年度は9月21日に通過した台風15号の影響で、陸上採苗施設に大きな被害がありました。関係者の努力によって復旧が進み、9月25日頃から陸上採苗と育苗を開始しました。育苗開始後は水温停滞が続きましたが、10月中旬以降ノリ芽が小さくても健全な内に種網確保を進めほぼ予定どおり種網を確保できました。生産に向けた網の展開は水温が一段階低下した11月初め頃からは行なわれ11月上旬ごろから徐々に摘採を開始しました。栄養塩の減少や強風による芽の脱落、日照不足等によって、伸長状況はあまりよくありませんでしたが病害の蔓延や極端な色調低下は無く、年内生産は大きな問題無く経過しました。年明け以降は植物プランクトンの増加によって栄養塩がやや少ない状況が続いています。

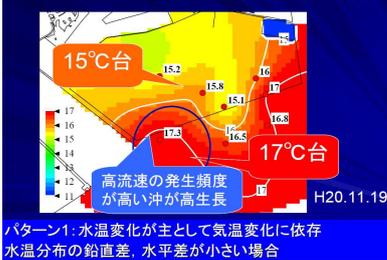
2. 場所別のノリ生長量・疾病発生状況調査の継続

昨年に引き続き、場所別のノリ生長量・疾病発生状況調査を継続し、ノリ養殖技術管理の改善向上に向けた基礎データを収集・整理しています。本年度はベタ流し漁場の底層にも自動観測機器を設置し表層と底層の水温差に着目しながら生育状況を調査しました（詳細なデータは現在解析中）。ベタ流し漁場の表層と底層の水温差は11月末までは1℃未満でしたが12月に入ると2℃程度に拡大し、沖の支柱柵漁場の水温変動も拡大しました。しかし、水温較差はそれ以上拡大せず、生育に著しい悪影響を与えることはありませんでした。

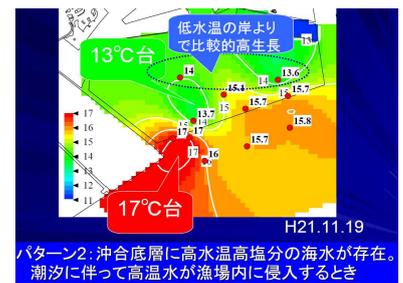
H20～22年の調査で得られた主な知見

- 三番瀬漁場の水温は沖合底層での高温水の有無によって異なる変動パターンを示す
- 両パターン間では生育状況に大きな差異を生じる

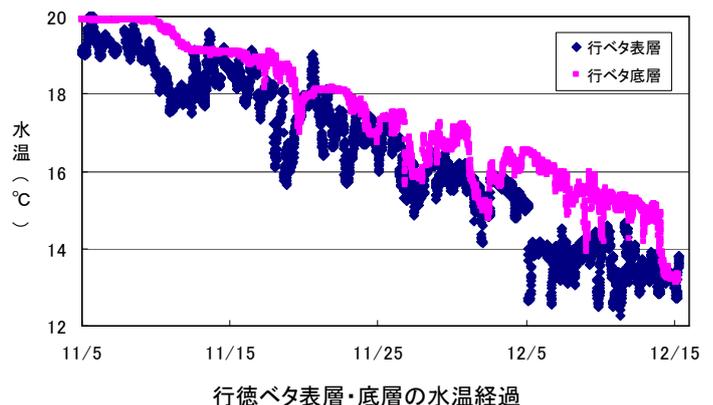
水温17℃以下で養殖が本格化する時期(11月)



パターン1: 水温変化が主として気温変化に依存。水温分布の鉛直差、水平差が小さい場合



パターン2: 沖合底層に高温水高塩分の海水が存在。潮汐に伴って高温水が漁場内に侵入するとき



行徳ベタ表層・底層の水温経過